

## 市民のライフラインを守り60年

### 甲府市管工事協同組合

甲府市管工事協同組合（雨宮正理事長 組合員42社）は、令和4年8月に設立60周年を迎えたことを記念し、2月22日に甲府市内で記念講演及び祝賀会を開催した。

甲府市は大正2年（1913年）に全国で26番目に上水道の給水を開始、1日の最大給水量が3倍に拡大した昭和29年から上水道工事指定店制度を採用、民間業者に給水装置工事資格が与えられ、昭和36年に組合の母体となる甲府市上水道工事指定店組合が創立、翌年8月に甲府市管工事協同組合が設立された。



最初の組合事務所(昭和38年)

現在の甲府市上水道は甲府市に加え甲斐市、中央市、昭和町などへの給水も担い、組合は維持管理面から市民のライフラインを支えている。

組合は、平成4年に甲府市上下水道局と「災害応急復旧工事等に関する業務協定書」を締結、阪神淡路大震災をはじめ全国各地の災害被災地に、水道設備復旧のための支援隊を派遣してきた。また、市の総合防災訓練に毎年参加し、防災復旧工事訓練に積極的に取



栗山会長他、多くの来賓も60周年を祝った



あいさつを行う雨宮理事長

組んでいる。平成28年度及び29年度には組合と組合員が災害時の事業復旧方法をあらかじめ決めておく「事業継続計画（BCP）」策定にも取り組み、組合独自に組合員への安否確認訓練も実施するなど、BCPの実効性の検証と組合と組合員間の連携体制構築に努めた。

近年、コロナ禍において連携活動が制限される中でも将来の業界を担う人材育成や資格取得等の支援を行うなど活動を止めることは無い。



地震による漏水を想定した復旧工事訓練(令和4年)

雨宮理事長は、「設立60年を経過し、組合員事業者の役割は水道の普及から生活に欠かせないライフラインの維持に変わった。各企業も安定的に事業活動を続けていくことが求められ、組合の行う支援も変化しなければならない。昨今の経済情勢を背景に事業継続のための経営計画策定支援「新3K（給与・休暇・希望）」の実現に向けての取り組みや後継者・承継者の育成なども重要課題となっている。今後も甲府市上下水道局、中央会、組合員・青年部などと協力を図り、市民のライフラインを守る責務を果たすために、個々の組合員が抱える課題解決や経営基盤の強化に組合として共同の力で取り組んでいきたい。」と力強く語った。

